英文法 L01 第 45 講 that 名詞節

学習目標

that 名詞節が文中で主語・目的語・補語として働く位置を見分け、節全体の役割と節内部の主語・動詞・目的語などの役割を区別できる。

解説

1. that 節とは何か

that 節とは、接続詞 that に導かれ、主語と動詞を含む語のまとまりだ。これまで学んだ名詞は、人や物、事柄などを表し、文中で主語・目的語・補語になる。that 節も、文全体の中では名詞と同じような働きをする。このような節を **that 名詞節**という。

that 名詞節を読むときは、節全体が文中でどの役割を持つかと、節の内部で各語がどの役割を持つかを分けて考える必要がある。

2. that 名詞節が主語になる場合

That she passed the test was surprising.

彼女が試験に合格したことは意外だった。

この文では、[That she passed the test] 全体が主語で、was surprising が述語に当たる部分だ。文はピリオドで終わり、that 節は test までで終わる。

一方、that 節の内部を見ると、she が主語、passed が動詞、the test が目的語になっている。接続詞 that は節を導く語であり、節内部の主語や目的語を務めているわけではない。

3. that 名詞節が目的語になる場合

I know that Ken is honest.

私はケンが正直だということを知っている。

この文では、I が主語、know が動詞で、[that Ken is honest] 全体が know の目的語だ。that 節は that から honest までで、文全体はピリオドで終わる。

that 節の内部では、Ken が主語、is が動詞、honest が補語になっている。節全体は主節の目的語だが、節内部では Ken と honest がそれぞれ別の役割を持つ。この二つの階層を混同しないことが大切だ。

4. that 名詞節が補語になる場合

The problem is that we have no time.

問題は、私たちに時間がないということだ。

この文では、The problem が主語、is が動詞、[that we have no time] 全体が補語だ。that 節は that から time までで、ピリオドで文が終わる。補語は主語の内容を説明する働きを持つため、この that 節は「問題」が何であるかを説明している。

©ミライコーチング

節内部では、we が主語、have が動詞、no time が目的語になっている。ここでも、that 節全体の補語という役割と、内部の各語の役割は異なる。節全体の役割と、節内部の各語の役割を分けて捉えることが大切だ。

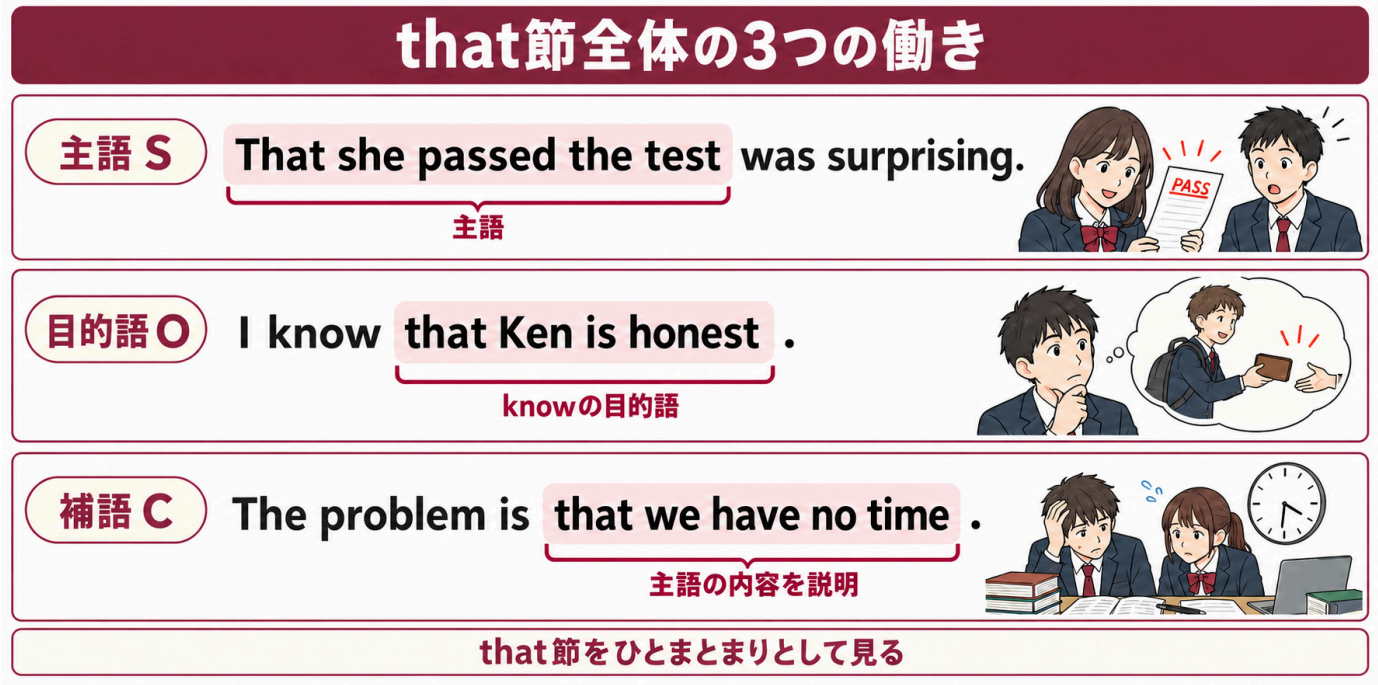

図 1　that 節の主語・目的語・補語の整理

解説

5. It is…that と形式主語

that 節を主語にすると、文頭に長いまとまりが置かれることがある。そのような文では、主語の位置に形式主語 it を置き、that 節を後ろに置く形も使える。

That she passed the test was surprising.

彼女が試験に合格したことは意外だった。

It was surprising that she passed the test.

彼女が試験に合格したことは意外だった。

2 つの文は、ほぼ同じ内容を表す。最初の文では、[That she passed the test] 全体が主語だ。一方、2 つ目の文では、It が形式主語、was が動詞、surprising が補語であり、that 節は後ろに置かれている。この that 節は、何が意外だったのかという内容を表す。

形式主語 it 自体が「彼女が合格したこと」を意味するわけではない。内容を表す that 節を後ろに置き、it を主語の位置に置く構造だ。

なお、that 節の内部では she が主語、passed が動詞、the test が目的語になっている。接続詞 that は節を導くだけで、内部の主語や目的語にはならない。また、that の直後は主語＋動詞の語順になるため、疑問文のように動詞を主語の前に置かない。

©ミライコーチング

1

次の英文の [that Mia is kind] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

I believe [that Mia is kind].

A. 文全体の主語

B. believe の目的語

C. is の補語

D. kind の目的語

解答・解説

正解：B

完成英文と和訳

I believe that Mia is kind.

私は、ミアが親切だと信じている。

判断の手順

まず、文全体の主語と動詞を確認する。主語は I、動詞は believe だ。次に、何を信じているのかを考えると、「ミアが親切だということ」が答えになる。この内容を表す [that Mia is kind] 全体が、動詞 believe の目的語になっている。

節の切れ目は I believe | that Mia is kind. と捉えられる。that 節の内部では、Mia が主語、is が動詞、kind が補語だ。接続詞 that は節を導く語であり、節内部の主語や目的語ではない。節全体の役割と、節内部の各語の役割を分けて判断することがポイントだ。

各選択肢の解説

A. 文全体の主語ではない。文全体の主語は I であり、that 節は believe の後ろに置かれている。

B. 正しい。that 節全体が「何を信じているのか」を表し、believe の目的語になっている。

C. is の補語ではない。節内部で is の補語になっているのは kind であり、that 節全体は文全体の中で believe の目的語として働く。

D. kind の目的語ではない。kind は形容詞で、Mia の状態を説明する補語だ。that 節全体が目的語になる位置は、節内部の kind の後ろではなく、主節の believe の後ろである。

2

次の英文の構造について、正しい説明を 1 つ選べ。

It is clear that Ken is tired.

A. It は、ケンが疲れていることを直接指す代名詞である。

B. that Ken is tired 全体が、文の形式主語である。

C. It が形式主語で、that Ken is tired が後ろに置かれた内容を表す。

D. that が節内部の主語で、Ken がその目的語である。

©ミライコーチング

解答・解説

正解：C

完成英文と和訳

It is clear that Ken is tired.

ケンが疲れていることは明らかだ。

判断の手順

この文では、It が形式主語、is が動詞、clear が補語である。さらに、that Ken is tired は「ケンが疲れていること」という内容を表す節で、文の後ろに置かれている。形式主語 it を使うことで、内容を表す that 節を後ろに置いた形になっている。

文全体の構造は、It is clear と that Ken is tired に分けて捉えられる。後半の that 節の内部では、Ken が主語、is が動詞、tired が補語だ。接続詞 that は節を導く語であり、節内部の主語や目的語にはならない。また、that の直後は Ken is のように主語＋動詞の語順になる。疑問文のように語順を入れ替えないことが判断のポイントだ。

各選択肢の解説

A. 誤り。ここでの It は形式主語であり、that 節の内容を直接指す代名詞として使われているわけではない。

B. 誤り。that 節は後ろに置かれた内容を表す節であり、形式主語は It である。節全体と形式主語を混同しないことが大切だ。

C. 正しい。It が形式主語となり、that 節が後ろに置かれている。is clear は「明らかだ」という意味を表し、that 節が何について明らかなのかを示している。

D. 誤り。that は接続詞であり、節内部の主語は Ken、目的語ではなく補語に当たる語は tired である。



図 2　疲れたケンを見て、疲れていると分かる

演習問題

1

次の英文の [That Tom won the game] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

That Tom won the game surprised us.

A. 文全体の主語

B. surprised の目的語

C. 文全体の動詞

D. won の補語

2

次の英文の [that Leo is kind] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

Mia believes that Leo is kind.

A. 文全体の主語

B. believes の目的語

C. Leo の目的語

D. kind の目的語

3

次の英文の [that we have no time] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

The problem is that we have no time.

A. 文全体の主語

B. have の目的語

C. 文全体の補語

D. is の目的語

4

次の英文の [that Nina called me] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

I know that Nina called me.

A. 文全体の主語

B. know の目的語

C. Nina の目的語

D. called の補語

©ミライコーチング

5

次の英文の [That the shop is closed] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

That the shop is closed worries me.

A. worries の目的語

B. 文全体の主語

C. closed の補語

D. me の主語

6

次の英文の [that Maya likes cats] 全体の働きとして正しいものを 1 つ選べ。

The truth is that Maya likes cats.

A. likes の目的語

B. Maya の主語

C. 文全体の補語

D. is の目的語

7

次の英文の構造について、正しい説明を 1 つ選べ。

It is good that Anna came home.

A. that Anna came home 全体が文の形式主語である。

B. that は節内部の主語である。

C. Anna came home は疑問文の語順である。

D. It が形式主語で、that 節が後ろに置かれている。

8

次の英文の構造について、正しい説明を 1 つ選べ。

It is clear that the bus is late.

A. It が形式主語で、that 節内部は the bus が主語、is が動詞である。

B. It が that 節内部の主語である。

C. that 節内部では is が主語の前に置かれている。

D. that the bus is late 全体が clear の目的語である。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

正解：A

完成英文と和訳

That Tom won the game surprised us.

トムが試合に勝ったことは私たちを驚かせた。

判断の手順

文全体を [That Tom won the game] [surprised us] と分ける。文全体の動詞は surprised で、誰を驚かせたのかを表す目的語は us だ。何が私たちを驚かせたのかに当たる [That Tom won the game] 全体が、文全体の主語になっている。

節内部では Tom が主語、won が動詞、the game が目的語だ。接続詞 that は節を導く語であり、節内部の主語や目的語ではない。節全体の役割と内部の役割を分けて判断する。

各選択肢の解説

A. 正しい。that 節全体が文全体の主語であり、何が私たちを驚かせたのかを表す。

B. 誤り。surprised の目的語は us である。that 節全体は目的語ではなく主語だ。

C. 誤り。文全体の動詞は surprised である。that 節全体は動詞ではなく、主語として働く。

D. 誤り。節内部で won の目的語になっているのは the game である。that 節全体は won の補語ではない。

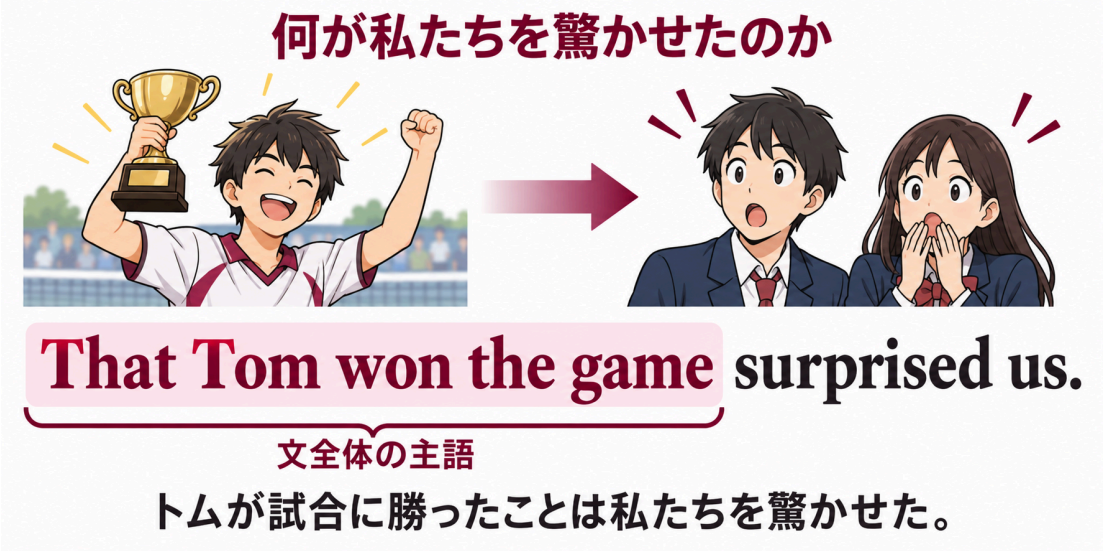

図 3　トムの勝利にみんなが驚く

2

正解：B

完成英文と和訳

Mia believes that Leo is kind.

ミアはレオが親切だと信じている。

判断の手順

文全体を Mia believes [that Leo is kind] と分ける。文全体の主語は Mia、動詞は believes だ。ミアが何を信じているのかを表す [that Leo is kind] 全体が、believes の目的語になっている。

節内部では Leo が主語、is が動詞、kind が補語だ。kind は Leo の性質を説明する。接続詞 that は節を導くだけで、節内部の主語や目的語にはならない。文全体での節の役割と、節内部の各語の役割を区別することが大切だ。

各選択肢の解説

A. 誤り。文全体の主語は Mia である。that 節全体は文全体の主語ではなく、believes の目的語だ。

B. 正しい。that 節全体が「何を信じているのか」を表し、believes の目的語として働く。

C. 誤り。that 節全体は Leo の目的語ではなく、believes の目的語である。Leo は節内部の主語だ。

D. 誤り。that 節全体は kind の目的語ではなく、believes の目的語である。kind は節内部の補語だ。

3

正解：C

完成英文と和訳

The problem is that we have no time.

問題は、私たちに時間がないということだ。

判断の手順

文全体を The problem is [that we have no time] と分ける。The problem が主語、is が動詞、[that we have no time] 全体が補語だ。補語は主語の内容を説明する働きを持ち、この that 節は「問題」が何であるかを説明している。

節内部では we が主語、have が動詞、no time が目的語だ。節全体の補語という役割と、内部の目的語という役割を混同しないことが重要だ。

各選択肢の解説

A. 誤り。文全体の主語は The problem であり、that 節全体は主語ではなく補語だ。

B. 誤り。have の目的語は節内部の no time である。that 節全体は have の目的語ではない。

C. 正しい。that 節全体が主語 The problem の内容を説明する補語になっている。

D. 誤り。この文の is は主語と補語を結ぶ動詞であり、that 節全体を目的語として取っているわけではない。

4

正解：B

完成英文と和訳

I know that Nina called me.

私はニナが私に電話したことを知っている。

判断の手順

文全体を I know [that Nina called me] と分ける。I が主語、know が動詞、[that Nina called me] 全体が know の目的語だ。「何を知っているのか」に当たる内容を that 節が表している。

節内部では Nina が主語、called が動詞、me が目的語だ。that 節全体の役割と、内部の各語の役割は異なる。特に、節全体が know の目的語であっても、内部の主語 Nina が目的語になるわけではない。

各選択肢の解説

A. 誤り。文全体の主語は I である。that 節全体は文全体の主語ではなく、know の目的語だ。

B. 正しい。that 節全体が「何を知っているのか」を表し、know の目的語として働く。

C. 誤り。Nina は節内部の主語であり、目的語ではない。また、that 節全体は Nina の目的語ではなく、文全体の know の目的語だ。

D. 誤り。called の目的語は me であり、that 節全体は called の補語ではない。節全体と節内部の役割を区別する必要がある。

5

正解：B

完成英文と和訳

That the shop is closed worries me.

その店が閉まっていることは私を心配させる。

判断の手順

文全体を [That the shop is closed] [worries me] と分ける。文全体の動詞は worries、目的語は me であり、何が私を心配させるのかを表す that 節全体が主語になっている。

that 節の内部では the shop が主語、is が動詞、closed が補語だ。接続詞 that は節を導くだけで、内部の主語や目的語にはならない。節全体と内部の役割を分けて考えることが重要だ。

各選択肢の解説

A. 誤り。that 節全体は worries の目的語ではない。worries の目的語は me で、that 節全体は主語だ。

B. 正しい。that 節全体が「何が私を心配させるのか」を表す文全体の主語になっている。

C. 誤り。that 節全体は closed の補語ではない。closed 自体が that 節内部の補語であり、that 節全体は文全体の主語だ。

D. 誤り。that 節全体は me の主語ではない。me は worries の目的語であり、that 節全体は文全体の主語として働く。

6

正解：C

完成英文と和訳

The truth is that Maya likes cats.

本当のことは、マヤが猫を好きだということだ。

判断の手順

文全体を The truth is [that Maya likes cats] と分ける。The truth が主語、is が動詞、that 節全体が補語だ。この節は「本当のこと」が何であるかを説明している。

that 節の内部では Maya が主語、likes が動詞、cats が目的語だ。that 節全体の補語という役割と、内部の目的語という役割は異なる。接続詞 that は節を導く語であり、節内部の主語や目的語ではない。

各選択肢の解説

A. 誤り。that 節全体は likes の目的語ではない。likes の目的語は節内部の cats であり、that 節全体は文全体の補語だ。

B. 誤り。that 節全体は Maya の主語ではない。Maya 自体が節内部の主語であり、that 節全体は文全体の補語として働く。

C. 正しい。that 節全体が主語 The truth の内容を説明する補語になっている。

D. 誤り。that 節全体は is の目的語ではない。ここでの is は主語と補語を結ぶ動詞であり、that 節全体はその補語だ。

7

正解：D

完成英文と和訳

It is good that Anna came home.

アンナが家に帰ってきたことはよいことだ。

判断の手順

文全体は It is good と that Anna came home に分けて捉える。It は形式主語、is は動詞、good は補語である。形式主語とは、内容を表す節などを後ろに置くとき、主語の位置に置かれる語をいう。この文では、that 節が「何がよいことなのか」という内容を表している。

that 節の内部では、Anna が主語、came が動詞、home が「家へ」という意味を添えている。that の直後は Anna came のように主語＋動詞の語順になる。疑問文のように語順を入れ替えないことが重要だ。

各選択肢の解説

A. 誤り。that 節全体は形式主語ではない。形式主語は It であり、that 節は後ろに置かれている。

B. 誤り。that は節を導く接続詞であり、節内部の主語は Anna である。

C. 誤り。Anna came home は主語＋動詞の語順であり、疑問文の語順ではない。

D. 正しい。It が形式主語で、that 節が後ろに置かれて内容を表している。

8

正解：A

完成英文と和訳

It is clear that the bus is late.

バスが遅れていることは明らかだ。

判断の手順

文全体は It is clear と that the bus is late に分けられる。It は形式主語、is は動詞、clear は補語である。that 節は「何が明らかなのか」という内容を表し、文の後ろに置かれている。

that 節の内部では、the bus が主語、is が動詞、late が補語だ。that の直後は the bus is という主語＋動詞の語順になる。節全体の役割と節内部の役割を区別して判断する。

各選択肢の解説

A. 正しい。It が形式主語であり、that 節内部では the bus が主語、is が動詞である。

B. 誤り。It は文全体の形式主語であり、that 節内部の主語ではない。内部の主語は the bus である。

C. 誤り。that 節内部では主語 the bus の後に動詞 is が置かれている。is が主語の前にあるわけではない。

D. 誤り。that 節全体は clear の目的語ではない。clear は補語であり、that 節は後ろに置かれて明らかな内容を示している。

©ミライコーチング